



● 色彩教材研究会総会成立のご報告

研究会は年度末に総会を開くことが義務付けられていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、昨年同様にメールによる総会の形をとり実施いたしました。

4月11日に、承認多数の結果で成立いたしました。

研究会員には、以下の議案をお送りしました。

第1号議案 2021年度色彩教材研究会活動報告承認の件

第2号議案 2021年度色彩教材研究会決算書承認の件

第3号議案 2022年度色彩教材研究会活動計画承認の件

第4号議案 2022年度色彩教材研究会予算承認の件

第5号議案 2022年度色彩教材研究会幹事会役員選任承認の件

メールによる回答を集計致しました結果、全議案は35名の「承認」により可決されました。

これまでの皆様のご協力に感謝申し上げます。新主査のもと、新たな形での研究会の更なる発展の為、引き続き、皆様のご協力ご参加をお願い致します。 (三本由美子)

● 芹沢銈介デザインのジャパンプルー

芹沢銈介は、昭和3(1928)年頃に、沖繩の紅型(びんがた)の風呂敷の作品に魅了されてからその後、紅型の着物の美しい色や模様、図案に感銘を受け、自身の作品への影響も少なくない。

昭和4(1929)年頃には、ろうけつ染めの作品で、作家デビューし、翌年には型染に移行した。紅型の技法は自身に大きく影響し、デザイン、配色などに垣間見れた。特に暖色系の色、赤・橙・黄、他緑や青(緑みの青)など型染ならではの発色は綿や麻など素材などによっても異なるが、穏やかで深く温かみのある配色である。

一方で、開館40周年で3月21日まで開催された静岡市立芹沢銈介美術館にて、自身の作品と多くの収集品も含め、地の色がジャパンプルー、日本の藍染での染色技法の筒描(つつがき)の風呂敷、のれん、裂などの作品をを観る機会があった。吉祥文の鶴亀松竹梅文、宝尽くし文、茶道具文、動植物が組み合わせられた文様などが施された藍染の世界。濃淡は、使用状況、素材により微妙に異なる藍染作品。デザイン性のある明快な文字や文様のあるジャパンプルーにどれだけ魅了されたことでしょうか。 (瀧川優子)

● 季語集の中の色名ー5

● 初夏の季語

青梅雨(あおづゆ)：梅雨は、丁度若葉の季節でもあるので青梅雨ともよぶ。

黒南風(くろはえ)：梅雨期に入り吹く南風。

金魚田(きんぎょだ)：金魚を飼育する田。

金魚売、金魚鉢、金魚玉、金魚。

青葉木兎(あおばづく)：みみづくより大きく、黒褐色の愛嬌ある鳥。

青鷺(あおさぎ)：みと鷺とも呼ばれ羽は淡青。河沼に住む。

黒鯛(くろだい)：普通の鯛は夏味が劣るのに対して、初夏の黒鯛は美しく且つ美味しい。

白鱈(しろぎす)：細長く黄味を帯びた魚。

青鱈(あおぎす)：川に棲んで川鱈ともいう。

緋目高(ひめだか)：メダカの中では美しい色彩を持っている。

萬緑(ばんりょく)：新緑を更に大きく見て。

緑立つ(みどりたつ)：松の緑が伸びることをいう。

紫蘭(しらん)：庭に栽培される蘭で、紅紫色の美しい花をもつ。

青梅(あおうめ)：青い梅の実。

麦の黒穂(むぎのくろほ)：麦の病気の穂。

初夏は多種類の動物や植物が出現して、多くの季語を形成している。 (永田泰弘)